



東近江

びわこ
JAZZフェスティバル
in東近江

街中をステージに、音楽で地域を元気に！ 演者、観客、市民が一緒に創るジャズ祭

毎年4月に開催される「びわこJAZZフェスティバルin東近江」は、今年で7回目を迎える東近江市の春の風物詩だ。いつも見慣れた街並みがステージに変わり、音楽を無料で気軽に楽しめるこのイベントには、今や3万8千人を超える来場者が訪れ、街に大きな賑わいをもたらしている。

出演者、観客が全国から 街に溢れる多彩な音楽♪

ビルや店舗の前、公園、道路など、日常的な空間を、その日だけは音楽を演奏するステージに変え、観客はそれらを自由に巡って無料で演奏を楽しむ。そんな街自体を舞台にした音楽イベントが、地域活性化策として注目を集めている。

日本での草分けは、今年で25回目を迎え、観客数約75万人を誇る、宮城県の一「定禅寺ストリートジャズフェスティバルin仙台」。同様のイベントが全国各地で開かれるようになり、2009年から始まった「びわこJAZZフェスティバルin東近江」もその一つだ。

びわこJAZZフェスティバルは、今年

も4月18日(土)、19日(日)、近江鉄道八日市駅から東近江市役所周辺を会場に開催される。7回目を迎えた今年のテーマは『わたしたちの街を音楽で繋ぐ』。make Our future。44カ所のステージで、プロ・アマ問わず全国各地から応募のあった180組以上の出演バンドが、本格的なジャズからロック、フォーク、ブルースなど、あらゆるジャンルの音楽をパフォーマンスする。飲食や手作り雑貨などを販売するブースも多数設けられ、観客は心浮き立つような時間を過ごすことができるという。

魅力は市民の手作り感 幅広い層のボランティアが支える

「地域とともに、地域の良さを生かして私たちのふるさと、東近江をすてきな音

楽でいっぱい楽しく住みよい街にしていきたい」。そんな思いで、定禅寺ストリートジャズフェスティバルを参考に始めたびわこJAZZフェスティバルは、第1回からずっと市民ボランティアで構成する実行委員会を中心に運営されてきた。

当日の会場運営や誘導、清掃から各会場での司会進行まで、学生や主婦、サラリーマンなど幅広い層のボランティアが行う。昨年は延べ400人が参加した。まさに市民による手作りのフェスティバルだ。

毎回挑む、新たな試み 成長するフェスティバル

実行委員会では新たな挑戦を毎年行うと決めている。開催自体がチャレンジだった1年目は、電車の中でライブ演奏を行う「近江鉄道ガチャコンJAZZ」



人気アーティストも参加する

レイン」を実現。第2回は駅前を歩行者天国に。第3回は渡辺香津美さんなどのトップミュージシャンを招いて前夜祭を開催。第4回からは2日間開催に挑み、第5回は次代を担う若者たちの音楽レベル向上を目指して、10代限定のバンドコンテスト「ティーンズバトル」をスタートさせた。第6回の昨年は2日目の日曜日に市役所前の公道まで歩行者天国を拡大した。今年も歩行者天国を2日間完全実施し、手作り市など音楽以外の出展を新たに50以上も増やした。

こうした挑戦の積み重ねもあって、第1回では1日開催の15ステージ、1000組の出演、来場者1万5千人だったものが、昨年は2日間開催の延べ35ステージ、出演者180組、来場者3万8千人まで拡大した。第3回から始めた東日本大震



街中にJAZZが溢れる



メインの通りが歩行者天国に

災へのチャリティ募金も続けている。集められた義援金は「東日本大震災復興支援プロジェクト」を通じて、被災地被災者の復興に役立てられているという。

「観客、演奏者、ボランティア、それぞれ一度参加すると、リピーターになる方が多い。観客と演奏者の間の距離感が程よく、気軽に会話を交わせる温かい雰囲気がいい」という声をよく聞く」と話すのは副実行委員長の森鉄兵さん。

地元の商店・企業の協力も年を追うごとに増えている。開催日に合わせて帰省し、仲間が集まることを恒例にしている人たちもいる。びわこJAZZフェスティバルは、地元にとって自慢できる大切なイベントに育ってきた。

誰もが自由に参加できる態勢 「みんなで創る」意識を広げる

規模が拡大する中、実行委員会が常に気に掛けていたのは、このフェスティバルが、誰もが自由に参加でき、みんなで創るイベントであり続けることだった。

「成功すればするほど、一部の人が運営してくれるから任せておけばいいと思う人が増えるのではないかと心配だった。営利が目的の興行ならば、主催者や出演者、観客、地元の役割は明確に分かれたほうがいい。しかし、私たちのフェスティ



ジャズ祭を支えるボランティアの皆さん

バルは、関わる者の誰もが、自分たちが創っているという感覚を持つことが理想的。誰もが運営する者、出る者、見る者になるようなボーダーレスな状態のほうがいい」と小倉昌和事務局局長は話す。

びわこJAZZフェスティバルに多くの人が楽しさや心地よさを感じるのには、実は「みんなで創る」意識が、参加する出演者、ボランティア、市民に自然に浸透しているからかもしれない。

「少しでも多くの人にこのイベントの魅力に触れていただき、出演者、観客を増やして、賑わいを大きくしたい。そして、こんなすてきなことができるこの街に住みたい」という人が増えることを望んでいる」と小森俊彦PR・広報担当は話す。今年も、音楽溢れる東近江の街で春の一日を満喫し、街の活性化に貢献するフェスティバルの魅力を感じてみてはいかがだろうか。